



“心豊かに
笑顔あふれる”

響

所報〈ひびき〉

No.
104

青森県
総合社会教育センター

平成28年 2月19日

三大教育県 「実践の山形」から 学ぶ社会教育

平成27年11月10日（火）生涯学習・社会教育関係職員研修講座「第4回中堅職員研修」が当センターにて開催されました。

講座では「社会教育分野における青少年教育の実際」の演題で山形県南陽市みらい戦略課 文化会館庶務係長 嶋貫 憲仁 氏に山形県南陽市の取組事例を基に講演いただきました。

講演の中で嶋貫氏は次のように述べておられました。

『青年教育は事業実施が困難な分野だと考えています。その原因としては少子高齢化・人口減少・青年団組織の全国的な衰退など、社会構造の変化が背景にあるからだと考えています。』

『南陽市では行政職員と地域が一体となり、未来を担う若い人材の発掘と育成のため様々な事業の立ち上げを行い、地域や若者にアプローチしています。』

地域に埋もれた青年の発掘、地域や人との関係づくり、ネットワーク形成と組織化など、事業の目的や効果をより明確化し、段階的に実施する南陽方式と呼ばれる事業展開で青年教育に精力的に取り組んでいることを実感しました。

嶋貫氏を中心に南陽市で取り組んでいる青年教育に関連する主な事業を紹介します。

- ①「夢はぐくむ故郷(まち)南陽コンペティション」事業（目的：青年の発掘とまちづくりグループ化等）
- ②「国際青年ファームフォーラム in 南陽」事業（目的：世界の青年達との交流・シンポジウム等）

◎青年の人材発掘や海外交流を目的とした海外研修事業を実施し、青年トップリーダーの育成や国際的な視野を備えた人材育成につなげていました。



山形県南陽市みらい戦略課
文化会館庶務係長 嶋貫 憲仁 氏

また研修のまとめとして、社会教育で働く職員にとって“心に響く言葉”をいただきました。

- ◎計画（事業）成功の秘訣は、丸投げせず、手間暇をかけ、プロセスを大事にする
- ◎相互学習の姿勢を大切にする
- ◎学習によって意識・考え・行動が変われば教育は、まちを変える源となる
- ◎社会教育は役所の中で一番幸せな部署である

【受講者の感想】

- ・地域に持ち帰り、自分たちの地域づくりのヒントにしたいです。
- ・青年の発掘や地域とのネットワーク、大切なポイントに改めて気づきました。事業の目的や効果を明確化していきたいです。
- ・まちづくりに対する意欲や方策がすばらしかったです。
- ・目標や理想に向かって継続する力が必要だと気づきました。

社会教育の最前線で活躍している講師のお話と山形での先進的事例は受講者にとって大変充実した研修となりました。

来年度も県内外の事例を紹介し、受講者が活用できる内容の研修を開催する予定です。

青森県総合社会教育センター

検索

〒030-0111 青森市荒川字藤戸119-7 TEL 017-739-1252 FAX 017-739-1279 <http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/>

求められる公民館の役割

公民館は、個人の要望や社会の要請に応え、地域活動の拠点として、**集う**〔人財の発掘〕、**学ぶ**〔人財の育成〕、**つなぐ**〔人財のネットワーク化〕の役割を果たしている社会教育の拠点施設です。

青森県には各市町村の条例により、中央館、地区館合わせ、280館の公民館が設置されています。

(平成27年4月現在)

◆公民館の役割

公民館の役割について、文部科学省告示「公民館の設置及び運営に関する基準」(平成15年)では、次の通り基準を示しています。

(1)地域の学習拠点としての機能の発揮

- ①多様な学習機会の提供
- ②学習情報の提供の充実

(2)地域の家庭教育支援拠点としての機能の発揮

(3)奉仕活動・体験活動の推進

(4)学校、家庭及び地域社会との連携等

- ①学校・家庭・地域社会との連携推進
- ②公民館類似施設への協力及び支援
- ③青少年、高齢者、障害者、乳幼児の保護者等の参加促進
- ④地域住民等の学習成果、知識・技能の活用

(5)地域の実情を踏まえた運営

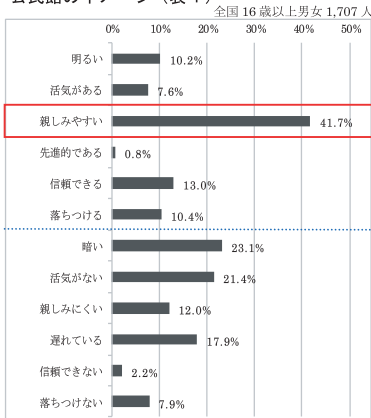
- ①住民ニーズの反映
- ②地域の実情の勘案

公民館の役割をまとめると、①地域における学習支援(自発的な学習活動の支援を促す学習情報の提供及び多様な学習機会の提供等)、②地域づくりやまちづくりの支援等となります。

◆親しみやすい公民館

地域住民は公民館に対し、どのようなイメージを持っているのでしょうか？

公民館のイメージ(表1)



「学習活動やスポーツ、文化活動に係るニーズと社会教育施設等に関する調査」
文部科学省(平成18年)

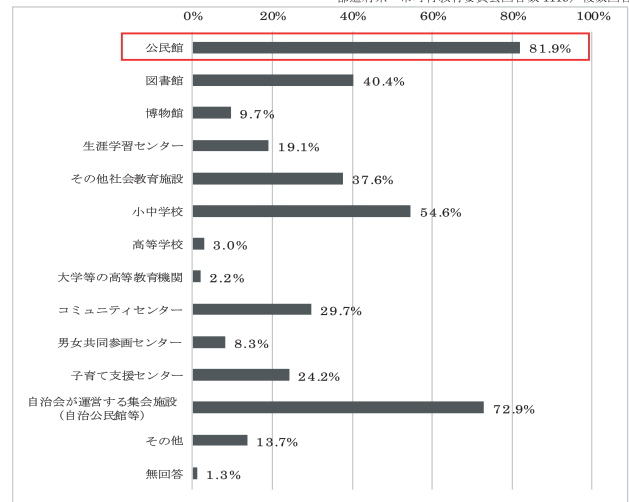
平成18年に文部科学省が実施した調査(表1)によると、地域住民の4割が公民館を「親しみやすい」とプラスのイメージを抱いているものの、次いで「暗い」、「活気がない」等マイナスイメージの回答が占めています。

◆地域活動の拠点としての公民館

一方で、平成26年に文部科学省が実施した調査(表2)では、地域住民が参加して行う活動の「拠点」となっている施設としては、公民館を81.9%と高い回答を得ています。このことから都道府県・市町村教育委員会は公民館を「地域活動の拠点」と認識していることがわかります。

住民が参加して行う活動の拠点(表2)

都道府県・市町村教育委員会回答数1119/複数回答



「社会教育に関わる地域人材の養成実態及び活動実態に関する調査研究報告書」
文部科学省(平成26年)

◆青森県の公民館では

平成25年に、青森県教育委員会が県内の公民館を対象に実施した「公民館機能に関する現状調査」(表3)によると、公民館館長が今後重要と思われる取組については、「成人向け学級・講座の提供」が最も多く、次いで「地域づくりリーダーの育成」、「住民の学習ニーズの把握」となっています。

公民館館長が今後重要と思われる取組(表3)

回答数307/複数回答

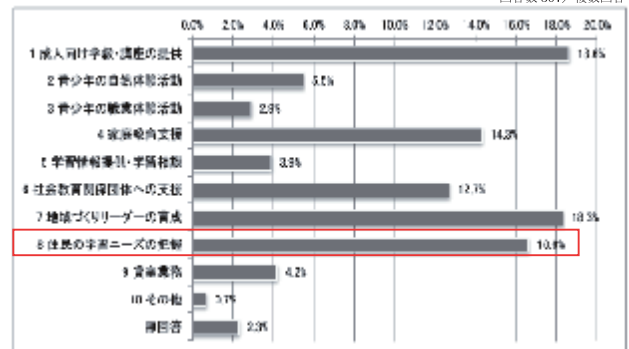


表3「公民館機能に関する現状調査」青森県教育委員会(平成25年)

◆地域課題やニーズ把握の必要性

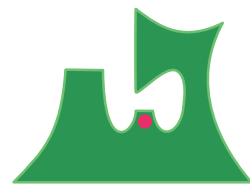
公民館の効果的な活用に向けて、公民館職員をはじめ社会教育関係者は、地域の問題と住民の要望を話し合える機会を積極的に設定する役割等が期待されています。

そして公民館職員等が、地域課題・ニーズ分析をし、それに基づいた学習プログラムの立案、学習活

動等を通じた住民の組織化支援、地域の教育資源を結びつけるコーディネート等を実施することが必要です。

このことによって、地域住民が主体的に地域を学び、地域課題に気づき、課題解決に向けて協力しながら社会教育活動を実践することにつながります。

地域の実情を踏まえた公民館運営 平内町藤沢公民館の取組



平内町藤沢地区では、県の「人口減少克服プロジェクト」事業のモデル地区として指定され、藤沢公民館を拠点として、他団体と連携しながら、地域課題解決に向けた取組を実践してきました。

ここでは、実際の公民館運営に必要なポイントに絞って、活動を紹介します。

◆ポイント1 現状と住民ニーズの把握

・全戸配布によるアンケート調査の実施（86戸）
今後の居留意向や、子どもの居住地域などについて調査。

・ヒアリング調査の実施
生活環境、産業や雇用、祭りや伝統芸能、交流の状況、子どもの育成環境などについて聞き取り調査を実施。



ヒアリングの様子

◆ポイント2 将来ビジョンの策定と合意形成の手法

・まち歩きの実施

地域の良いところを再発見し、空き家や農地の状況などを確認。

・先進地視察の実施

秋田県大館市山田集落会、五城目町清流の会、新郷村川代地区との交流。

・新年を語る会の実施

アンケート結果（地域課題の洗い出し）の中間報告、世代間交流、「やったらいい活動アイデアカード」の張り出し。

・小冊子の制作

アイデアカードを整理し、今後5年間を見通した行動目標を公表。

◆ポイント3 地域との連携と他団体との連携の在り方

町内会や子ども会、婦人会や老人クラブ、消防団など地元に着目した団体のほか、大学や行政、近隣の町内会等、積極的に多くの団体や機関と連携。

◆ポイント4 活動方針の策定

・活動できる人たちが無理のないことをする

・身近なものを活用し、それをお小遣いに変える

・多世代の人々が集まり、交流する機会を増やす

・地域にゆかりのある地区外の人との交流機会を増やし、つながりを強くする

◆ポイント5 公民館を拠点とした活動の実際

・先進地リーダーによる講演会

・健康教室（月1回の開催）

・そば栽培及びそば打ち交流（世代間交流）

・かごづくり教室の実施

・農林業ドクター制度（林業研究所）を活用したハタケシメジ試験栽培

・子ども会主催による野外体験教室の開催

◆まとめ◆

アンケートや聞き取り調査をすることで住民ニーズと課題をしっかりと把握し、地域住民の合意形成につなげています。これにより将来に対するビジョンを明確に地域住民同士が共有したことになります。

そして、実践活動を重ねていくうちに、住民からより具体的な構想が生まれ、今後5年間を見通した活動計画が住民自身の手により策定されています。

これらの取組を通して、住民が地域で主体的に生き生きと活動するようになったそうです。

このように、公民館は住民のやる気を引き出し、住民自らが公民館を拠点として取り組めるようにサポートしていくことが強く求められています。

講座受講生のビフォーアフター（第5回）

平川市教育委員会 生涯学習課 主査

北川 真吾（きたがわしんご）さん

平成27年度「ボランティア関係機関職員養成講座」受講生

ボランティア職員養成講座を受講して 自分の事業運営のヒントを得る



（北川 真吾さん）

Q なぜ、この講座を受講しようと考えましたか？

今年度より、自分が手がけている事業の中に、「平川市に興味がある若者を対象とした地域づくり・まちづくりの活性化」をテーマにした事業がありました。その事業を行う上で、**地域づくり・まちづくりには、ボランティア分野は不可欠だ**と思い、何かそれにあつた研修はないかと思っていた時に「**海外ボランティアの経験を地域で活かす**」という演題での講座を総合社会教育センターで開催されると知り、是非とも講師の相馬さんの話を聴きたくて、受講しました。

Q 講座を受講し参考になったことは何ですか？

相馬氏の講義を聴き、普段、人とコミュニケーションをとる際、日本語でも難しいのに、海外で言葉が通じなくても自分の思いを懸命に伝える努力が必要だという話に心を打たれました。



午後の演習「**貿易ゲーム**」では、

仲間と協力し、知恵を出し合い、日頃、意識することのない**交渉力・営業力**という言葉の意味を知りました。

ワークショップで、グループの代表として発表する北川さん

また、**新たな自分を発見するワークショップ**を初めて体験し、とても新鮮な気持ちになったと同時に、今後に役立つヒントをたくさん得ることができました。

Q 「今後に役立つヒント」とは具体的にどのようなことですか？

相馬氏の「**人づくりに対する考え方**」や「**人をつなげていく姿勢**」は、大変参考になりました。

今、担当している「**まち活ひらかわ未来塾**」は、当初、市内の20代から40代を対象に行っていましたが、地域の高校生にも将来のまちづくりや構想について関心をもってもらいたいと考え、地

元の柏木農業高校生まで門戸を広げ、呼びかけました。その中の「**キャンドルと切り絵と路上ライブナイト**」の事業

では、柏木農業高校の「**ボランティア委員会**」に声をかけ、キャンドル作りと切り絵のワークショップを行う際の



切り絵のワークショップで、サポートする高校生ボランティアサポート役として、高校生に受講者への作業の支援や準備・片付けなどの活動をしていただきました。

今後も、「平川市の未来を考えよう」をテーマに、ワールドカフェを開催し、地元の高中生や若者の意見を取り入れて、未来の担い手発掘・育成・支援事業「**まち活ひらかわ未来塾**」を継続・発展させていきたいと思ひます。

Q これから講座を受講したいと思っている人へのメッセージをお願いします。

何かしらの事業の担当をしている人や何かのヒントがほしいと思っている人にとって、総合社会教育センターの講座やセミナーは受ける価値があると思ひます。**ちがう扉を開くことで、新たな発見、視界が広がる**と思ひます。

また、異なる職種の方や同じ悩みを持つ方々からたくさんの情報を得ることもできます。是非とも、参加してみてください。

ボランティア関係機関職員養成講座…教育委員会、市役所・町村役場職員、市町村社会福祉協議会担当等を対象に講義・演習を通して専門性と資質の向上を目的に、社会参加活動の推進・充実をめざします。

今年度は、全3回で54人の受講生が参加。

ワールドカフェ…カフェにいるようになりリラックスした雰囲気の中で、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話をし、時々メンバーを替えて話し合う手法。